

		整理番号	6
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	要保護児童対策地域協議会における取り組み		今年のごと
			チラシ等
			無
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 DV対応の取り組み	
事業の目的・概要	【目的】 虐待を受けている子どもをはじめとする要保護児童の情報や支援についての考え方を共有することにより、該当児童の早期発見や適切な対応を図る 【概要】 関係機関（児童相談所、町役場関係課、所・園・小中学校）が、要保護児童の情報を共有・今後の支援の方向性や役割分担について協議し、対応する。		
事業の効果	【効果】 関係機関（児童相談所、町役場関係課、所・園・小中学校）が連携し、要保護児童の情報や支援に対する考え方を共有することで、該当児童の早期発見や適切な対応につながる。		
具体的な取り組み	要保護児童対策地域協議会実務者会 年3回 必要に応じて、個別支援会議を開催。		

【最終評価】

事務局	事業実績	要保護児童対策地域協議会実務者会 9月・12月・2月実施 個別支援会議 5回実施					
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位					
		事業費 (千円)	今年度予算額 前年度決算額	今年度 決算見込額	差引	0【説明】 0	
	成果・効果	要保護児童の情報や支援についての考え方を共有し、今後の支援の方向性や役割分担について協議することができた。					
	課題	虐待が疑われるような様子に気づいたときの対応をすべての職員に周知し適切に対応できるようにすること。					
改善方針	「児童虐待の早期発見と適切な対応について」保育現場の職員が研修する機会を持つ。(福祉課主催)						
内部評価	最終評価	【意見等】・改善方針を実施し、それによって得られたことを検討する。その検討をもとに次の段階へ進むことが必要。					
	C						

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	7
		担当課名	生涯学習課
事業名	青少年育成北栄町民会議(街頭補導及びパトロール)		今年のしごと
教育ビジョン	小項目	1 乳幼児が安心して、すくすく育つ家庭や地域	チラシ等
	具体的な目標	8 地域防犯・地区防犯パトの組織化	P9 無
事業の目的・概要	【目的】 地域防犯による環境浄化及び青少年健全育成		
事業の効果	【概要】 青色防犯パトロール車による見守りパトロールの実施。 地域パトロール隊との情報共有。		
	【効果】 青色防犯パトロールにより非行防止、抑制効果が見込まれる。 地域全体での青少年の見守り。		
具体的な取り組み	・夏休みと冬休みに計8回のパトロール実施。 ・地域パトロール隊への不審者情報等提供。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・夏休みに計6回のパトロール実施。 ・地域パトロール隊への不審者情報等提供。								
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名/単位	H26							
		パトロール/回	8							
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額	0	今年度 前年度決算額	0	決算見込額	差引	0	【説明】
		成果・効果	・青色防犯パトロールによる非行防止、抑制効果。 ・地域全体での青少年の見守りができた。							
	課題									
改善方針										
内部評価	最終評価	【意見等】・重大事件が発生しないように力を注ぐこと。								
	C									

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	8
		担当課名	教育総務課
事業名	職場体験学習(ワクワク)		今年のしごと チラシ等 P22 有 4
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 職場体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶ。また、そのことを今後の進路について考えることに役立てる。 【概要】 事業所において、4日間の職場体験実習を行う。		
事業の効果	【効果】 ・体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶことができる。 ・自分の能力や特性を発見・理解することにつながる。 ・社会の一員としての自覚をもち、社会の規律やマナーを学ぶことができる。		
具体的な取り組み	○事前指導 ・目的、心構え ・電話のかけ方 ・日誌、名札等 ○職場体験学習(4日間) 北条中 7/1～7/4 大栄中 9/16～9/19 ○事後指導 ・まとめ		

【最終評価】

事務局	事業実績	職場体験学習(4日間) 北条中 7/1～7/4 大栄中 9/16～9/19 「完了済み」						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名/単位	H23	H24	H25	H26		
		職場体験実施日数(北条中)/日	4	4	4	4		
		職場体験実施日数(大栄中)/日	5	4	5	4		
		事業所数(北条中)/事業所	12	37	26	33		
		事業所数(大栄中)/事業所	21	28	31	27		
	事業費 (千円)	今年度予算額	119	今年度		36	【説明】 保険料	
		前年度決算額	114	決算見込額	83	差引		31
	成果・効果	・体験を通して、働くことの楽しさや厳しさを学ぶことができた。 ・自分の能力や特性を発見・理解することにつながった。 ・社会の一員としての自覚をもち、社会の規律やマナーを学ぶことができた。						
	課題	特になし						
改善方針	●引き続き継続							
内部評価	最終評価	【意見等】・継続実施してほしい。 ・職場体験では声掛け、あいさつすることもある。本当にきちんと声が出ているか、気持ちよいあいさつができていないか、厳しさを学んでいるだろうか。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号	9
担当課名	教育総務課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	ゲストティーチャー招聘(地域人材の活用)		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	P22	有 6
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	2-2	6-3
事業の目的・概要	【目的】 地域の人とかかわりあいながら、よりよく生きようとする態度を養う。 【概要】 地域の人材を招いての授業や総合的な学習等を行う。			
事業の効果	【効果】 ・身近な人の生き方に学ぶことができる。 ・地域の一員であるという自覚がうまれる。 ・地域の活動に参加しようという意欲につながる。			
具体的な取り組み	○中学校 ・社会人に学ぶ授業の講師 ○小学校 ・クラブ活動の指導 ・道徳・教科学習等			

【最終評価】

事務局	事業実績	○小学校 ・クラブ活動の指導 ・道徳・教科学習等 ○中学校 ・社会人に学ぶ														
		「完了済み」														
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位	H23			H24			H25			H26				
		社会人に学ぶ授業/人(北条中)										2				
		社会人に学ぶ授業/人(大栄中)										7				
		指導:回数・人(北条小)	24	65		24	59		0		13	30				
		指導:回数・人(大栄小)	3	12	45	3	12	43	3	14	182	16	64			
	事業費 (千円)	今年度予算額	57		今年度 決算見込額		50	差引		7	【説明】					
		前年度決算額								0	報償費					
	成果・効果	・身近な人の生き方に学ぶことができる。 ・地域の一員であるという自覚がうまれる。 ・地域の活動に参加しようという意欲につながる。														
課題	特になし															
改善方針	●引き続き継続															
内部評価	最終評価	【意見等】・「働くこと」とはどんなことなのか感じてもらいたい。 ・北条小・北条中での取り組みが目標に達していない。														
	C															

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	10
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	運動部活動推進事業(外部指導者)		今年のしごと チラシ等 無
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 2-2 6-3
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 中学校運動部活動の指導に地域の人材を活用し連携しながら技術の向上を図る。 【概要】 中学校運動部活動に外部指導者を招へいし、技術の向上を図る。		
事業の効果	【効果】 ・専門的な見地から技術・メンタル指導により生徒の技術の向上を図ることができる。 ・地域の人材を指導者として招へいすることにより交流・連携が図れる。		
具体的な取り組み	・中学校運動部活動外部指導者 ・北条中 ソフトボール、卓球、バドミントン ・大栄中 陸上競技、卓球、柔道、剣道 指導者研修 1回/年 謝金 上限10万円/年(国:10/10)		

【最終評価】

事務局	事業実績	・中学校の運動部外部指導者による指導は実施中。 (北条中)3名:ソフトボール、卓球、バドミントン (大栄中)4名:柔道、駅伝、卓球、剣道						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名/単位	H23	H24	H25	H26		
		運動部外部指導者(北条中)	3 国2	4 国1	4 国4	3 国7		
		運動部外部指導者(大栄中)	3 県4	4 県7	2 県2	4		
	事業費 (千円)	今年度予算額	0	今年度	0	差引	0	【説明】
		前年度決算額	0	決算見込額	0		0	
	成果・効果	・地域の人材を外部指導者として招聘し交流・連携ができています。 ・専門的な技術指導により競技技術の向上が図れている。						
	課題	・限られた競技のみ外部指導者への報償金支払いとしている。 ・指導者設置の競技数を増加する場合、予算がさらに必要となるため検討が必要である。						
	改善方針	【継続:内容検討】 ・競技数の増加(指導者の増加)と予算措置を検討する。						
内部評価	最終評価	C						
		【意見等】 ・報償金の内容はどのようなものか。 ・予算措置が必要。						

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

		整理番号	11		
		担当課名	教育総務課		
事業名	転入教職員の町内めぐり			今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども		その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	2 地域文化とのふれあいを深める教育の推進			
事業の目的・概要	【目的】・北栄町のよさを知るとともに関心を持ち、北栄町を好きになるきっかけとする。 ・児童生徒が北栄町を好きになるために、授業や活動等を考える際の参考にする。 【概要】転入職員が、児童生徒が生まれ育った北栄町の歴史・文化などに触れる				
事業の効果	【効果】北栄町について興味関心を持つきっかけになる。 (家庭訪問や校外学習・行事等で)町内に出かける際に役立つ授業づくりや授業展開等の参考になる。				
具体的な取り組み	年度当初に町のマイクロバスで、由良台場跡、青山剛昌ふるさと館、北条砂丘風力発電所、山菜の里、北条歴史民俗資料館を見学する。(史跡の案内は生涯学習課、「北条砂丘風力発電所」の説明は、地域整備課) また、車窓よりコナン駅、名探偵イラスト看板、ラッキョウ選果場、ラッキョウ畑、ブドウハウス、北条砂丘治水センター等についても説明する。				

【最終評価】

事務局	事業実績	4月4日午後、本町転入職員がマイクロバスで町内を巡り、町の歴史・文化・農業などに触れた					
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名／単位	H24	H25	H26		
		興味関心を持つきっかけとなった	100	96	96		
		児童・生徒との話題に役立った	66	62	56		
		授業づくりの参考にした	35	35	13		
		事業費 (千円)	今年度予算額	今年度決算見込額	差引	0	【説明】
			前年度決算額			0	
	成果・効果	児童・生徒の生まれ育った北栄町を知り、興味を持つきっかけとなった					
	課題	町めぐりをしたことが、指導に役立てられるようにする					
	改善方針	授業づくりに活かした例を紹介する					
内部評価		最終評価	D 【意見等】・町内めぐりについて、外周を回るだけでなく、各集落の中に入ってもよいのではないか。たとえば集落内の道路や桜のスポット等。毎年コースは同じなのか。 ・町内めぐりの歴史・文化等がどの授業の場面で使えるかの資料化を期待。 ・授業づくりの参考にしたという回答がかなり低い。参加する新任教員が「授業にどう役立てるか」という意識が薄いのでは。町めぐりの取り組みはよいことだと思うので良い事例を紹介する。 ・授業づくりに活かすだけでいいのか。				

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

			整理番号	12
			担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			今年のごと	チラシ等
事業名			無	
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	4 町の自然や歴史に触れ合えるイベントの開催	2-9	
			6-5	
事業の目的・概要			6-6	
事業の効果			【目的】 町の歴史や文化に直接触れることにより町への興味・関心を高め、愛着心と誇りを持つ。	
具体的な取り組み			【概要】 町内の史跡・名勝・文化財などを徒歩でめぐり、それぞれの場所で成り立ちや歴史を解説する。	
			【効果】 歴史愛好者とウォーキング愛好者の両方を対象とし、住民が身近な地域の歴史や文化的財産を知り、身近に感じ、触れることにより、自分の住む町に興味・関心を持ち、質が高く心豊かで健康な生活を送ることに資する。	
			北条歴史民俗資料館発着で、米里から弓原浜周辺をウォーキングコースに設定し、古墳、遺跡、史跡等について成り立ちや歴史を解説する。	

【最終評価】

事務局	事業実績	9月20日(土) 北条歴史民俗資料館→北条島→下北条駅→弓原浜(力士墓)→大野(北条中学校跡)→田井(茶臼山)→北条歴史民俗資料館のコースで実施。									
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名／単位									
		参加人数／人		38							
	事業費 (千円)	今年度予算額	10	今年度 決算見込額	10	差引	0	【説明】消耗品(缶バッヂ・印刷用紙等)			
		前年度決算額	10				0				
	成果・効果	多くの参加者があった。 「次はここに行きたい」といった声が聞かれ、地元に興味を持つよい機会を提供できた。									
	課題	町内の史跡等のさらなる掘りおこし。									
	改善方針	町内の文化財のさらなる情報収集。コース展開の検討。 更なる参加増への取り組み									
内部評価	最終評価	【意見等】・町内史跡をもっと周知、認識させたい。 ・文化財マップはあるか。									
	C										

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	13
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	地域子ども教室(子どもほくえい塾)の実施		今年のしごと チラシ等
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	1 地域との連携を深め特色ある教育活動の推進	
事業の目的・概要	【目的】 子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりの促進 【概要】 地域住民からボランティアの講師を募集し、様々な体験活動を実施		
事業の効果	【効果】 地域住民を講師とすることで地域の大人との交流が促進されるとともに、地域で活動することで地域に愛着をもつ子どもの育成につながる。 ボランティアに参加する方の地域活動への参加意欲が促され、地域の教育力の向上につながる。 子どもの居場所づくりにもなっている。		
具体的な取り組み	ボランティア(地域住民講師)の募集。 週末(土日)、長期休業日(夏休み等)に事業の実施(チラシを学校を通じて配布)。		

【最終評価】

事務局	事業実績	(H26. 4～12)実施回数 119回 参加人数 子ども 845人 大人 464人 サポーター 448人					
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位					
	事業費 (千円)	今年度予算額	598	今年度		差引	598【説明】
		前年度決算額	594	決算見込額			594
	成果・効果	子どもたちに様々な体験活動を提供することが出来た。 子どもから大人まで幅広い年齢層での活動・交流をととしてコミュニケーション能力の向上も期待できる。					
課題	ボランティアサポーターの固定化						
改善方針	新規のボランティアサポーターの開拓、事業を広報等を活用してPR 指標の設定						
内部評価	最終評価	【意見等】 ・27年度から実施する「土曜日の子どもの過ごし方」にあわせて「子どもほくえい塾」のPRを含め活動強化を図ることも必要。 ・地域活動・ボランティア活動につながったか。					

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

			整理番号	14	
			担当課名	生涯学習課	
【評価事務事業：当初確認事項】					
事業名	中央公民館青少年対象講座			今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども		その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	6 地域の教育力の向上を目指す取り組み			
事業の目的・概要	【目的】 幅広い年代に多様な学習機会を提供するという公民館の役割を果たすため、これまでの生涯学習課で実施していた青少年地域活動事業をH25より公民館事業として実施する。 【概要】 工作教室、自然体験教室等によって、青少年の直接体験、仲間づくり、親子のふれあいなどを深める事業を実施する。				
事業の効果	【効果】 公民館を子どもの集まる場、地域の魅力を伝える場とするため、青少年を対象として事業を実施する。				
具体的な取り組み	* 親子木工教室				

【最終評価】

事務局	事業実績	「森の学校」に行って、親子工作をしよう」 日にち 8月23日 参加者 10名									
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名／単位		H25		H26					
		「森の学校」親子工作		22		10					
	事業費 (千円)		今年度予算額 1,800		今年度 決算見込額 1,800		差引		0【説明】		
			前年度決算額						0		
成果・効果	夏休みの自由工作の取り組みということで、夏休み期間の実施は良かった。盲校、使用したことのないコギリを使っての工作であり、親子でかかわっての貴重な体験ができ、内容的には良かった。また、工作だけに終わらず、自然の中で、親子での昼食も楽しいひと時を過ごせ意義あるものであった。そして、公民館まつり作品展に展示し、町民の皆さんに見ていただく機会を得た										
課題	台風直前ということもあり、参加者が10名ほどであったが、夏休み実施は今後も継続していきたい										
改善方針	周知方法を小学校・中学校にチラシを配布したが、知らない人もあり、周知方法を多様にしてもっと講座開催への周知を徹底して参加者を広げていきたい。										
内部評価	最終評価	【意見等】・地区の子ども会でも参加することはできないのか。 ・参加者には、公民館の役割を伝えることができたか。 ・事業の目的がよくわからない。									
	C										

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	15
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	青少年育成北栄町民会議交付金事業(子ども会・生徒会活動支援)		今年のしごと P9
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	チラシ等 無
	具体的な目標	7 子ども会・生徒会活動の活性化	その他共通ビジョン項目
事業の目的・概要	【目的】 子ども会・生徒会活動を通じて子どもの自主性、社会性、町への愛着を育む。 【概要】 自主的な子ども会・生徒会活動の支援		
事業の効果	【効果】 子どもの自主性、社会性、町への愛着を育む。		
具体的な取り組み	子ども会・生徒会への情報提供(研修、講演)		

【最終評価】

事務局	事業実績	子ども会・生徒会への情報提供(研修、講演)						
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位						
		事業費 (千円)	今年度予算額	0	今年度 前年度決算額	0	決算見込額	差引
成果・効果	子ども会・生徒会への情報提供(研修、講演) 子ども会、生徒会育成の中心となるPTA関係者が会員として町民会議に集うことにより、青少年健全育成に関する共通認識を深めるとともに、町民会議での議論をそれぞれの団体に持ち帰って浸透を図っている。							
課題								
改善方針								
内部評価	最終評価	【意見等】・この事業を子ども会・保護者会は知っているのか。						
	D							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A =目標を大幅に達成できた	D =目標を一部達成できなかった
B =目標をいくらか超えて達成できた	E =ほぼ全く達成できなかった
C =目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号

60

担当課名

教育総務課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	町学校教育研究協議会		今年のしごと・チラシ等 P20
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを想いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目 4-2
	具体的な目標	1 保・幼・小・中の連携の充実	
事業の目的・概要	【目的】 町内こども園・保育所(園)・小学校・中学校が相提携し、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育て、本町教育の充実進展に努め、併せて関係諸団体との緊密な連携を図る。 【概要】 園(所)、小・中学校が連携し、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育てる具体的な活動を推進する。		
事業の効果	【効果】 ・園(所)、小・中学校が連携することが、幼児、児童、生徒の豊かな人間性と確かな学力を育てることにつながる。		
具体的な取り組み	専門部会を組織し、活動を進める。 学習指導部、生徒指導部、人権教育部、特別支援教育部、健康教育部、読書推進部、就学前教育部、学校事務部		

【最終評価】

事務局	事業実績	・4月21日総会(月) 会場 大栄中学校 活動方針等協議 ・7月24日(木)全体研修会 講師 岡山大学大学院 佐藤暁教授 ・各部会の活動を実施中。 「完了済み」					
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位		H25	H26		
		総会による成果と課題の確認/回		1	1		
		理事会による運営についての協議/回		2	2		
	成果・効果	事業費(千円)	今年度予算額	150	今年度決算見込額	150	差引
			前年度決算額	150		150	0【説明】補助金
内部評価	課題	特になし					
	改善方針	●引き続き継続					
	最終評価	【意見等】・連携を図ることにより子どもたちに豊かな人間性と確かな学力を育てることができたか。					
		C					

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	16
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	中学校での心の教室相談事業		今年のしごと P22
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	テラシ等 有 10
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	その他共通ビジョン項目
事業の目的・概要	【目的】 生徒たちの抱えている悩みやストレス等を軽減するため、各中学校に生徒が気軽に相談でき、安心して学校生活を送れる環境整備として「心の教室」を設置する。 【概要】 生徒たちが学校や家庭など内容を問わず抱えている悩みを心の教室相談員（町非常勤職員）が「心の教室」で聞き取り、生徒が安心して学校生活が送れるよう環境整備する。		
事業の効果	【効果】 ・悩み相談の場を設けることで生徒が安心して学校に通学できる環境を整備する。 ・生徒のいじめや家庭環境、学習（高校進学）への取り組みなど内容を問わず悩みを聞き取ることでいじめや不登校などの早期発見・対策につながる。 ・教員との情報共有ができ、教員は早期対応、学級経営に役立てることができる。		
具体的な取り組み	・「心の教室」開設日 【北条中】 毎週 月・火・木・金 8:25～12:25 【大栄中】 毎週 月 8:20～16:50 火・水・木 10:00～14:00		

【最終評価】

事務局	事業実績	「心の教室」開設 継続実施中 【北条中】 毎週 月・火・木・金 8:25～12:25 【大栄中】 毎週 月 8:20～16:50 火・水・木 10:00～14:00 「未完了」修了式前日頃まで勤務あり							
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位		H23	H24	H25	H26(2学期末)		
		相談回数・人数(北条中)	11	29	8 3	23 23			
		相談回数・人数(大栄中)	75 38	79 23	30 12	59 32			
	事業費 (千円)	今年度予算額	1,440	今年度	1,440	差引	0	【説明】	
		前年度決算額	1,440	決算見込額			0	賞金	
成果・効果	・悩み相談の場を設けることで生徒が安心して学校に通学できる環境の整備を図った。 ・生徒のいじめや家庭環境、学習(高校進学)への取り組みなど内容を問わず悩みを聞き取ることでいじめや不登校などの早期発見・対策につなげるよう努めた。 ・教員との情報共有をして、教員の早期対応、学級経営に役立てよう努めた。								
課題	特になし								
改善方針	●引き続き継続								
内部評価	最終評価	【意見等】・取り組みに「努めた」ことにより、どんな効果が得られたのだろうか。							
	C								

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	61
		担当課名	教育総務課
事業名	いじめ対策のためのQ-U実施		今年のごと P20 チラシ等
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを思いやる心根を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 いじめ・不登校問題に対する学校の危機管理体制の充実	
事業の目的・概要	【目的】 アンケートを実施し、学級経営のための有効な資料を活用して、いじめや不登校などの問題行動の予防と対策に役立てる。 【概要】 アンケート結果を担当だけでなく、学年担当の複数の教員で分析して、学級経営等に役立てる。		
事業の効果	【効果】 ・子どもの学校生活での満足度と意欲、学級集団の状態を把握できる。 ・教員が学級及び児童生徒の状況を把握し、子どもが豊かに育ち・まなぶための環境づくりや児童生徒指導に役立てる。		
具体的な取り組み	・1学期に1回目の調査を実施し、学級集団の状況を把握して指導にあたる。 ・2学期に2回目の調査を実施し、学級集団の状況やその変化を把握して、指導にあたる。 ・研修会を実施し、活用方法について学ぶ。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・1学期と2学期にそれぞれ1回実施し、分析を指導に活かした。 「完了済み」						
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名／単位		H25	H26			
		分析検討会の実施/回		2	2			
		研修会の実施/回		1	1			
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額 956	今年度 決算見込額 944	差引	12	【説明】 委託料(調査を2回実施)	
			前年度決算額 960			16		
課題	特になし							
改善方針	●引き続き継続							
内部評価	最終評価	【意見等】・特になし						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	18
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	PTA活動費(研修会)補助金		今年のごとチラシ等
教育ビジョン	小項目	2 地域での活動や地域人材の活用で、町の自然や歴史、文化、人を学び、町に愛着を持つ子ども	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 PTA活動の充実	
事業の目的・概要	【目的】 PTA活動に要する経費の一部を助成することにより、PTA相互の連携を図り、教育の振興、会員の研修に努め、児童生徒の健全な育成に資することを目的とする。 【概要】 PTA活動のうち講演会、研修会等の講師等謝礼について助成する。婦人会活動のうち補助対象事業の活動経費2分の1以内について助成する。		
事業の効果	【効果】 PTAとして自主的に自立した学習活動、青少年育成、会員研修等の活動を行うことにより、学校とともに子どもたちを育むという意識を喚起する。婦人会会員相互の連携と親睦を図る。知識と教養を深め、地域社会の福祉の増進、女性の自立と社会参加の促進を図り、男女共同参画社会の形成に資する。		
具体的な取り組み	こども園、小中学校PTA活動のうち講演会、研修会等の講師等謝礼について助成する。 婦人会活動のうち補助対象事業の活動経費2分の1以内について助成する。		

【最終評価】

事務局	事業実績	助成実績 小学校PTA 3回 26,000円 中学校PTA 1回 10,000円 こども園PTA 1回 20,000円 婦人会 130,000円						
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位	H23	H24	H25	H26		
		小P実施回数/回	3	4	3	3		
		中P実施回数/回	4	2	1	1		
		こども園P実施回数/回	—	—	—	1		
		婦人会補助金額/千円	130	130	130	130		
	成果・効果	事業費(千円)	今年度予算額 230	今年度決算見込額 185	差引	230	【説明】	
		前年度決算額	185			185		
	成果・効果	PTAとして自主的に自立した学習活動、青少年育成、会員研修等の活動を行うことにより、学校とともに子どもたちを育むという意識を喚起した。 婦人会会員相互の連携と親睦を図る。知識と教養を深め、地域社会の福祉の増進、女性の自立と社会参加の促進を図り、男女共同参画社会の形成に資することができた。 保育所・こども園PTAを補助対象とすることにより、「園行事を支える保護者会」でなく「主体的な学習活動を行うPTA」として自立するよう促すことができた。						
	課題	保育所・こども園保護者会がPTAに移行するようさらに促し、学習活動と組織の育成支援を広げる。						
改善方針	こども園PTAを助成対象とする。							
内部評価	最終評価	【意見等】・特になし						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	20																																								
		担当課名	教育総務課																																								
【評価事務事業：当初確認事項】																																											
事業名	少人数学級の推進		今年のしごと P8 P19																																								
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	有 13																																								
	具体的な目標	1 学校教育の充実	その他共通ビジョン項目 4-3 4-5																																								
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させることにより、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図る。 【概要】 小・中学校の学級編成を国・県の基準を上回る(一部)町独自の基準で取り組み、小学校1年から中学校3年までの9年間をきめ細かく丁寧な学習指導を行う。																																										
事業の効果	【効果】 少人数学級編成をすることで、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させることができる。そのことにより、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図ることができる。																																										
具体的な取り組み	・次の基準(町基準)で学級編成を実施する。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>小1</td> <td>小2</td> <td>小3</td> <td>小4</td> <td>小5</td> <td>小6</td> <td>中1</td> <td>中2</td> <td>中3</td> </tr> <tr> <td>国</td> <td>35</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>県基準</td> <td>30</td> <td>30</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>33</td> <td>35</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>町基準</td> <td></td> <td></td> <td>33</td> <td>33</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※県基準：小1・小2・中1 県費、その他は200万円協力金 町基準：500万円協力金				小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	国	35	40	40	40	40	40	40	40	40	県基準	30	30	35	35	35	35	33	35	35	町基準			33	33					
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3																																		
国	35	40	40	40	40	40	40	40	40																																		
県基準	30	30	35	35	35	35	33	35	35																																		
町基準			33	33																																							

【最終評価】

事務局	事業実績	北条小 2年(県費)、4年(200万円協力金) <u>すべて2学級から3学級へ</u> 大栄小 4年(200万円協力金) 北条中 1年(県費) 大栄中 1年(県費)、2年(400万円協力金)、3年(200万円協力金) 「完了済み」						
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位		H25	H26			
		県・町基準による学級編成/学年		7	7			
	成果・効果	事業費(千円)	今年度予算額	12,000	今年度決算見込額	10,000	差引	2,000
			前年度決算額	17,000				7,000
課題	少人数学級編成をすることで、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導を充実させることができた。そのことにより、学校生活や人間関係への円滑な適応、基本的な生活習慣の確立、基礎学力の定着を図ることができた。							
改善方針	●引き続き継続							
内部評価	最終評価	【意見等】-継続してほしい。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号 21

担当課名 教育総務課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名		小中連携で取り組む授業改革ステップアップ事業	今年のしごと	チラシ等
				無
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	1 学校教育の充実		
事業の目的・概要		【目的】 小中連携による小中学校9年間での集団生活や価値ある体験活動を通して、人間関係づくりを基盤とした授業改革を進め、温もりのある人間関係づくりと自己調整力を育むことにより、学ぶ力の向上を図る 【概要】 人間関係づくりを基盤とした授業改革と小中連携の実施		
事業の効果		【効果】 人間関係づくりを基盤とした授業改革を進め、温もりのある人間関係づくりと自己調整力を育むことにより、学ぶ力の向上を図ることができる。		
具体的な取り組み		○授業研究会の取り組みおよび工夫 ・次からの授業実践につなげたり深めたりできる研究協議 ・小中合同授業研究会を実施し、小中学校の教師がチームを組織しTT等の授業を行う。 ○ととりの授業改革【10の視点】の活用とアンケートによる評価 ・体験的な学習の充実 ・学び合う活動の充実 ○保護者理解を深め、連携できる体制づくり		

【最終評価】

事務局

事業実績	第1回プロジェクトX会議・小中教科部会の開催 5/7 アンケート実施 7・12月(小中学校) 体験的な学習と学び合う活動の充実 「未完了」H26・27継続事業										
指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位		H26								
	アンケートのポイント向上(%)		4.2								
成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額	500	今年度	412	差引	88	【説明】			
		前年度決算額		決算見込額			0	講師報償費、消耗品費			
	成果・効果		人間関係づくりを基盤とした授業改革を進め、温もりのある人間関係づくりと自己調整力を育むことにより、学ぶ力の向上を図ることができた。								
	課題		特になし								
改善方針		●引き続き継続 (H26・27 果事業 10/10)									
内部評価	最終評価	【意見等】・継続して取り組むことが大事。									
	C										

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	22
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	ICT教育活動支援員の配置		今年のしごと チラシ等 P8 P19 無
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目 4-4
	具体的な目標	1 学校教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 児童生徒の情報活用能力の向上や学習効果の高い情報機器を活用した授業を推進し、児童生徒の学力の向上を図る。また、ホームページの更新など学校の情報提供を行い開かれた学校を推進する。 【概要】 ・学習教材の作成や授業における情報機器の操作補助を行う。 ・学校情報の発信のため、ホームページの更新などを行う。		
事業の効果	【効果】 ・児童生徒の情報活用能力の向上を図る。 ・情報機器を活用した授業を推進し児童生徒の学力の向上を図る。 ・学習教材の作成や情報機器の操作補助を行い教員の負担軽減し、教員の児童生徒の関わりを増加する。 ・ホームページの更新により開かれた学校づくりを推進する。		
具体的な取り組み	・各小・中学校 1名(合計4名)配置 ※ICT教育活動支援員(臨時職員):週5日 7時間45分勤務 ・年間を見通した学習教材の作成補助を行う。 ・情報機器(電子黒板やプロジェクターなど)を活用した授業を推進するため、機器の操作補助や教職員に機器の操作説明を行う。 ・情報機器の点検・改善を随時行う。 ・学校ホームページの更新を行い、対外的な情報公開を行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・小学校2校、中学校2校 各校1名(合計4名)配置済み ・各授業におけるICT機器を使用した学習教材の作成補助 ・学校内ICT機器の点検・管理及び操作説明・補助の実施 ・学校ホームページの更新作業実施					
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名/単位		H23	H24	H25	H26
		4校:各1名配置		各校 1 名	各校 1 名	各校 1 名	各校 1 名
				全 4 名	全 4 名	全 4 名	全 4 名
				※ 国事業	※ 国事業	※ 国事業	※ 単町
	事業費 (千円)	今年度予算額	今年度 決算見込額	差引	0	【説明】賃金	
		前年度決算額			0		
成果・効果	・IT授業参画やアンケート等の集計等、教員の負担軽減を図るとともに児童生徒と向き合う時間を確保した。 ・ICT機器を活用することにより学習への関心を高め、児童生徒の学力の向上を図った。 ・学校ホームページの随時更新により開かれた学校づくりと保護者・町民への情報共有を図った。 ・ICT機器のトラブルに対応し業務の効率を維持した。						
課題	・専門的な知識を持った人材の確保が必要である。 ・経費と効果の研修が必要である。						
改善方針	【引き続き継続】 ・今後、北栄町におけるICT教育の方針を策定し、その方針に基づく配置として位置づけ、児童生徒の学び力向上を図るとともに教員の負担軽減を図り教員の児童生徒との向き合う時間を確保する。						
内部評価	最終評価	【意見等】 ・情報活用能力や学力向上につながったことを確認する必要がある。 ・ICT教育支援員の配置によりどの程度教員の負担が軽減されたのか。検証が必要。					
	C						

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号 23

担当課名 教育総務課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名		土曜授業の検討	今年のごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	無	
	具体的な目標	1 学校教育の充実	その他共通ビジョン項目	
事業の目的・概要	【目的】土曜日の過ごし方について、児童生徒の実態をつかみ、土曜日の豊かな教育環境の在り方を考える。また、北栄町の目指す子ども像に向けての家庭・地域・学校の役割を考える。 【概要】アンケートや意見交換会を実施して土曜日の過ごし方の実態や保護者・教職員・社会体育等の土曜授業に対する考えをつかみ、土曜授業の必要性やより良い教育環境の在り方について検討する。			
事業の効果	【効果】土曜授業の必要性や目的を協議する中で、北栄町がどのような子どもを目指すのかや家庭・地域・学校の役割を改めて考えることにつながる。			
具体的な取り組み	・保護者アンケート(児童・生徒の土曜日の過ごし方、土曜授業に対する考え)実施 ・教職員アンケート(平日の学校生活、土曜授業に対する考え)実施 ・北栄スポーツクラブジュニアクラブ指導者アンケート実施 ・社会教育団体意見聴取 ・PTA・学校・教育委員会の意見交換会 ・教育委員会協議			

【最終評価】

事務局	事業実績	北栄町児童生徒の「土曜日の過ごし方」の方針を決定した。					
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名/単位					
		事業費 (千円)	今年度予算額 前年度決算額	今年度 決算見込額	差引	0【説明】 0	
	成果・効果	アンケート結果や意見交換等の内容を踏まえて何度も協議をし、北栄の子どもの実態に合った方針を決定することができた。また、各学校において具体的な取り組みを決定した。					
内部評価	課題	改めて学校・家庭・地域の役割を考え、連携をして、ともに見守り育てるようにしていくこと					
	改善方針	家庭教育12か条の普及啓発、自治会等地域ボランティア学習活動支援事業、学び力アップ週間等の取り組みを行う。 自治会長会、社会教育団体等に、引き続き協力をお願いをする。					
	最終評価	【意見等】・特になし					
内部評価		C					

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	24
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	講師招聘事業の実施		今年のしごと チラシ等
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきたい学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	2 教職員の資質・指導力の充実	
事業の目的・概要	【目的】 校内授業研究会に外部から学識経験者を招聘し、各学校の研究推進や当日の公開授業についてアドバイスをもらい、それをもとに授業力の向上を目指す。 【概要】 校内授業研究会に外部から学識経験者を招聘して指導助言をもらい、実践に活かす。		
事業の効果	【効果】 ・授業研究会の内容がより深まったり、授業研究の最先端の情報を知ったりすることができる。		
具体的な取り組み	外部から学識経験者を招聘して校内授業研究会を実施する。 大栄小学校 鳥取大学 矢部敏昭副学長 北条中学校 玉川大学教職大学院 松本修教授 大栄中学校（未定）		

【最終評価】

事務局	事業実績	校内授業研究会を実施 大栄小 5月15日、8月19日 北条中 6月26日、11月21日 大栄中 10月17日、1月30日 「完了済み」						
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位	H25	H26				
		授業研究会の実施/回	6	5				
		授業研究会のまとめ発行/回	6	5				
	事業費 (千円)	今年度予算額	477	今年度	417	差引	60	【説明】
		前年度決算額	300	決算見込額			-117	報償費
	成果・効果	・授業改善について専門的な指導助言を受けることで、学校全体で進める授業実践に活かすことができた。 ・授業研究の最先端の情報を知ることができた。						
	課題	特になし						
	改善方針	●引き続き継続						
内部評価	最終評価	C 【意見等】 ・今後も継続し回数を増やしてほしい。 ・先生方にとってよいものはどんどん取り入れてほしい。						

※ 評価確認事項

★評価の観点

- | |
|---------------|
| ① 継続・単年 |
| ② 対象者、参加者 |
| ③ 参加者の満足度 |
| ④ 予算措置 |
| ⑤ 教育ビジョンへの貢献度 |

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	25
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】		今年のごと	チラシ等
事業名	豊かな育ちと学び力アップ会議		その他共通ビジョン項目
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきたい学び、基礎・基本を身につける学校教育	
	具体的な目標	2 教職員の資質・指導力の充実	
事業の目的・概要	【目的】 子どもの学ぶ力を高め、学力向上につなげていくために、講師招聘授業研究会、学力調査活用を町内4小中学校が連携をしてより効果的に進める。 【概要】 各学校の教務主任・研究主任と町内校長1名、教頭1名で、講師招聘授業研究会、学力調査活用について協議する。		
事業の効果	【効果】 各校で取り組んでいる授業研究会や学力調査活用について、町内の4小中学校が連携して取り組むことで、より効果的に進めることができる。		
具体的な取り組み	豊かな育ちと学び力アップ会議の実施 ・第1回 6月27日(金)15:15～ 本年度の活動計画、中学校NRT分析結果共有 ・第2回 11月下旬 各校実践の振り返りと成果の共有、全国学力・学習状況調査の活用状況 ・第3回 3月中旬 小のNRT・中のCRTの結果分析、今後(次年度)の活動検討		

【最終評価】

事務局	事業実績	豊かな育ちと学び力アップ会議 ・第1回 6月27日(金)15:15～ 本年度の活動計画、中学校NRT分析結果共有 ・第3回 3月16日(月)15:15～ 小中学校学力検査の分析結果共有					
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	H26					
		会議の実施/回	2回				
	事業費 (千円)	今年度予算額	今年度 決算見込額	差引	0【説明】		
		前年度決算額			0		
	成果・効果	各校で取り組んでいる授業研究会や学力調査活用について、町内の4小中学校が連携して取り組むことで、より効果的に進めることができている。					
課題	特になし						
改善方針	●引き続き継続						
内部評価	最終評価	【意見等】・特になし					
	C						

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

		整理番号	26
		担当課名	教育総務課
事業名	全国学力・学習状況調査・NRT検査による学力状況把握・分析の実施		
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきたい学び、基礎・基本を身につける学校教育	今年のしごと チラシ等
	具体的な目標	3 基礎基本の定着	その他共通ビジョン項目
事業の目的・概要	【目的】 全国学力・学習状況調査・NRT検査を利用して、児童生徒の学力状況把握・分析を行い、児童生徒の基礎基本の定着を図る。 【概要】 全国学力・学習状況調査・NRT検査を行い、その分析を指導に活かす。		
事業の効果	【効果】 ・全国学力・学習状況調査・NRT検査の分析をすることで、児童生徒の状況が把握でき、指導のポイントが明確になり、児童生徒の基礎基本の定着につなげることができる。		
具体的な取り組み	小学校 ・全国学力・学習状況調査を実施し、分析をする。 ・NRT検査を1月に実施し、分析をする。 中学校 ・全国学力・学習状況調査を実施し、分析をする。 ・NRT検査を4月に実施し、分析をする。		

【最終評価】

事務局	事業実績	中学校 NRT(4月実施)の分析・活用 小・中学校 全国学力・学習状況調査分析・活用 小学校 NRT(1月実施)の分析・活用 「完了済み」									
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位		H25		H26					
		検査の分析まとめ/回		各1		各1					
成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額	1,544	今年度 決算見込額	1,511	差引	33	【説明】			
		前年度決算額	1,437				-74	委託料			
	全国学力・学習状況調査・NRT検査の分析をすることで、児童生徒の状況が把握でき、指導のポイントが明確になり、児童生徒の基礎基本の定着につなげることができる。										
	特になし										
改善方針	●引き続き継続										
内部評価	最終評価	【意見等】・今後もデータの蓄積をしていきたい。 ・どの子どもたちでも基礎基本の定着が一層深まるよう事業を進めること。									
	C										

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

		整理番号	27
		担当課名	教育総務課
事業名	「家庭学習手引き」の作成・配布		今年のしごと チラシ等
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきたい学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 基礎基本の定着	1-4 3-6
事業の目的・概要	【目的】「家庭学習の手引き」を作成・配布して、家庭学習の習慣化を図る。 【概要】「家庭学習の手引き」を活用して、家庭学習の習慣化を図る。		
事業の効果	【効果】「家庭学習の手引き」を活用することで、家庭学習への意欲向上や実践力向上を図り、基礎基本の定着につなげる。		
具体的な取り組み	・「家庭学習の手引き」を作成・配布する。 ・「家庭学習の手引き」を用いて指導する。		

【最終評価】

事務局	事業実績	北条小学校 配布・活用 1年用、2年用、3・4年用、5・6年用 北条中学校 配布・活用 「完了済み」					
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位				H25	H26
		「家庭学習の手引き」を作成・配布とその活用についての指導/回				1	各1(北条小・中)
		事業費 (千円)	今年度予算額 前年度決算額	今年度 決算見込額	差引	0:【説明】 0:	
	成果・効果	「家庭学習の手引き」を活用することで、家庭学習への意欲向上や実践力向上を図り、基礎基本の定着につなげた。(北条小・中)					
内部評価	課題	取り組みが北条小・中学校であった。					
	改善方針	●内容を変更して継続 ・北条小・中学校以外でも、作成・活用がなされるよう促していく。					
	最終評価	【意見等】・子どもたちの手引きになっているか検証をしていくことが必要。 ・改善方針を徹底すること。定着していることを明確にすること。					
		D					

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

			整理番号	28
			担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】				
事業名	生き方を学ぶ講演会			今年のしごと
				チラシ等
教育ビジョン	小項目	3 仲よく遊び、学び、他人の気持ちを想いやる心根を持つ子ども		その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	6 家庭教育の充実と青少年の健全育成		
事業の目的・概要	【目的】 豊かな心と自ら考え行動する力を持ち、自己実現ができる人を育成していくために、社会において強い信念を持ち、活躍している人の話を聞き、自分の生き方を考え、将来に希望を持ち、それを実現することにつながる学習や活動に意欲的に取り組むきっかけとする。 【概要】 各学校において、講演会を実施する。(対象 小学校5、6年生、中学校全学年)			
事業の効果	【効果】 社会において強い信念を持ち、活躍している人の話を聞くことにより、自分の生き方を考え、将来に希望を持ち、それを実現することにつながる学習や活動への意欲向上につながる。			
具体的な取り組み	生き方を学ぶ講演会 ・北条小 6月27日(金)10:30～ 講師 大部由美 氏 ・大栄小 (講師交渉中) ・北条中 (講師交渉中) ・大栄中 (講師交渉中)			

【最終評価】

事務局	事業実績	・北条小 6月27日(金)10:30～ 講師 大部由美 氏 ・大栄小 1月28日(水)10:45～ 講師 定常菜都子 氏 ・北条中 3月17日(火)10:50～ 講師 小澤治夫 氏 ・大栄中 11月15日(土)の50周年記念事業で卒業生による講演・演奏会実施 「完了済み」						
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名／単位	H26					
		講演会実施／回	2					
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額 360	今年度 決算見込額	175	差引	185	【説明】 報償費(大栄中は他事業で実施)
			前年度決算額				0	
	課題	・社会において強い信念を持ち、活躍している人の話を聞くことにより、自分の生き方を考え、将来に希望を持ち、それを実現することにつながる学習や活動への意欲向上につながる。						
	改善方針	・講師交渉に時間がかかった。 ・引き続き継続 ・講師交渉を早めに行い、1・2学期中の実施を図る。						
内部評価	最終評価	【意見等】・外部講師の講演は必要である。 ・継続実施を望む。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	62
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	大栄小「ことばの教室」の設置		今年のしごと テラシ等 P22
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきたい学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	5 個に応じた指導の育成	
事業の目的・概要	【目的】 言語にかかわる学習や生活におけるつまずきや困り感を軽減するために、一人一人に合わせた指導を行う。 【概要】 通常は、在籍している学級で学習し、週に1～2回程度「ことばの教室」に出かけて学習する。1対1の個別指導が中心。		
事業の効果	【効果】 必要な言葉のトレーニングやコミュニケーションの力を高めるトレーニングを行うことにより、自分に自信がつき、楽しく学校生活を送ることができる。		
具体的な取り組み	通級指導担当教員は、次のことを行う。 ・一人一人の児童にあわせた指導。 ・在籍学級担任と連携。（在籍学級での様子の観察及び在籍学級における配慮への助言）。 ・保護者への支援。 北栄町教育委員会は、通級指導委員会を開催し、入退級の審査や通級指導教室の円滑な運営を図るための事例検討を行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	・開設：平成17年度 ・対象：東伯郡内小学校の言葉やコミュニケーションに不安がある児童 ・内容：構音・吃音・言語障がい等による学習・生活の困難改善・克服のため週1、2回程度の指導。 保護者支援 ・指導：大栄小に指導教員1名配置						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位		H23	H24	H25	H26	
		入級対象児童数		26	26	30	25	
		うち 北条小		0	2	3	3	
		大栄小		21	19	22	18	
		町外小学校		5	5	5	4	
	事業費 (千円)	今年度予算額		今年度		差引		【説明】
		前年度決算額		決算見込額				
	成果・効果	2月1日現在で25人(大栄小18、北条小3、零浦町2、湯梨浜町2)が入級。構音・吃音の児童は、個別指導で舌を動かす方法や正しい発音等を、少しずつ改善しつつある。コミュニケーションに課題がある児童は、小集団指導により、友達に思いや考えを伝えることを楽しみ、自信をつけている。						
	課題	在籍学級の担任との連携をより図っていくことが課題である。						
改善方針	【継続】 通級担当教員が在籍学級の様子を参観するための時間を確保する、在籍学級担任が通級の様子を参観する機会を持つ、通級指導担当教員と在籍校担任の話し合いの会を設定するなどの取り組みを進める。							
内部評価	最終評価	【意見等】・改善方針に従い事業を実施し目標を達成することができるよう努力すること。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

【評価事務事業：当初確認事項】

		整理番号	29	
		担当課名	教育総務課	
事業名	英語指導助手(ALT)の配置		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	7 国際化に応じた教育の充実		
事業の目的・概要	【目的】 ALTとの英語の授業や英語に触れる活動、日常的なふれあい等を通じて、外国の様子や文化を理解しその良さを認めるとともに自分の国の良さを知り、英語によるコミュニケーション能力を身に付ける。 【概要】 2名配置(北条中学校、大栗中学校)し、中学校英語科、保育所・こども園・小学校外国語活動の指導補助にあたっている。中学校勤務3日、小学校勤務1日、教育委員会・保育所・こども園勤務0.5日			
事業の効果	【効果】 中学校:英語科の授業において教師とチームティーチングを組んで指導することによって、英語によるコミュニケーション能力(話す・聞く・書く・読む)が育つ。 保育所・こども園、小学校:担任とALTが、英語に慣れ親しむ活動や外国語活動を展開することによって、世界の国々に興味関心を持つとともに、英語によるコミュニケーションの素地が養われる。			
具体的な取り組み	中学校英語科(英語教師とALTとのチームティーチング、英語弁論大会の指導) 小学校5・6年生外国語活動(担任とALTのチームティーチング) 保育所・こども園、小学校1〜4年の外国語活動(英語に触れる活動) 給食・休憩時間、行事等学校生活の中での子どもたちとの触れ合い。 週に1回公民館で町民対象の夜間の英会話教室(自主運営)を担当			

【最終評価】

事務局	事業実績	中学校英語科、小学校5・6年生外国語活動 保育所・こども園、小学校1～4年の外国語活動(英語に触れる活動) 週に1回公民館で町民対象の夜間の英会話教室(自主運営)を担当 図書館における読み聞かせ等の催し(英語でお話会4回)						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位						
	成果・効果	事業費(千円)	今年度予算額 前年度決算額	今年度 決算見込額	7,352		【説明】	
		・小中学校:学習時間はもちろんのこと休憩時間・給食時間・行事等でもかかわることで、異文化を体験を通して理解し、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育っている。 ・保育所・こども園:楽しい遊びを通して英語に親しむことができた。図書館でのお話会には毎回70～80人の親子が参加し、英語や外国の文化に触れた。						
	課題							
	改善方針	【内容を見直して継続】 学習指導要領の改訂や低年齢児における外国語及び外国文化のふれあい活動等を見据えた事業内容を検討する。						
	内部評価	最終評価	【意見等】・感じる、聴き取ることができるようにすること、また、話すことができるようにすることが必要である。					
C								

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	30
		担当課名	教育総務課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	外国語教育事業の実施(1～4年)		今年のしごと チラシ等
教育ビジョン	小項目	4 子どもが意欲を持っていきいき学び、基礎・基本を身につける学校教育	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	7 国際化に応じた教育の充実	
事業の目的・概要	【目的】 子どもたちが、英語に慣れ親しみ、国際感覚を身に付ける 【概要】 小学校1～4年生で、年間10回ずつ「英語に触れる活動」を行う。		
事業の効果	【効果】 外国語に触れる活動を通し、自分たちとは違う言葉・文化に気付いたり、自国や世界の国々に興味を持ったりすることができる。		
具体的な取り組み	・「学年に応じた目標・評価の観点」「年間指導計画」「こんな気持ちで外国語活動を！！～教師の心構え～」を作成し、それに基づき実施。 ・「クラスルームイングリッシュ」を参考に、できるだけ教師が英語を使うようにする。 ・担任・ALT・外国語教育指導員で、事前に、活動案を基に授業の目標や活動内容などの打ち合わせを行う。 ・ゲーム・歌など体験的な活動を通して、楽しみながら英語に触れる活動を行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	年間指導計画に基づいて実施。教育課程外で年間10時間実施。 担任、ALT、外国語教育指導員で事前に打ち合わせを行っている。 ゲーム、歌など体験的な活動を通して楽しみながら英語に触れる活動を行っている。									
	指標 (具体的な 数値目標) の達成度	指標名／単位									
	成果・効果	事業費 (千円)	今年度予算額	891	今年度 前年度決算額	774	決算見込額	774	差引	117	【説明】
		ゲーム等を通して楽しみながら英語に触れ、英語に慣れ親しむことができた。 児童は、ALTや外国語教育指導員が英語で話していることを相手の表情や知っている英語を手掛かりに聞き取ろうとしたり、自分から積極的に話しかけようとしていたりしている。									
課題											
改善方針	【継続】 学習指導要領の改訂を見据え事業内容を検討する。										
内部評価	最終評価	【意見等】 ・英語に慣れるための工夫をすること。									
	C										

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号 31

担当課名 教育総務課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	学校における人権教育の推進		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目	
	具体的な目標	1 学校人権教育の推進		
事業の目的・概要	【目的】 豊かな心を持つ人を育成する。 【概要】 各学校が人権教育全体計画を作成し、教育活動を実施する。			
事業の効果	【効果】 人権教育全体計画を作成して教育活動を実施することで、豊かな心を持つ人を育成することにつながる。			
具体的な取り組み	人権教育全体計画の作成 人権教育全体計画に沿った教育活動の実施			

【最終評価】

事務局	事業実績	人権教育全体計画を作成 人権教育全体計画に沿った教育活動の実施中					
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位		H25	H26		
		人権教育全体計画の作成/回		1	1		
		人権教育推進についての振り返り/回		1			
		事業費 (千円)	今年度予算額 前年度決算額	今年度 決算見込額	差引	0 0	【説明】
	成果・効果	人権教育全体計画を作成して教育活動を実施することで、豊かな心を持つ人を育成することにつながっている。					
内部評価	課題	特になし					
	改善方針						
	最終評価	【意見等】・子どもの変化を見逃さないようにすること。					
		C					

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

整理番号	32
担当課名	生涯学習課

【評価事務事業：当初確認事項】

事業名	町民音楽祭開催		今年のしごと	チラシ等
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	無	
	具体的な目標	2 地域文化とのふれあいを深める教育の推進	その他共通ビジョン項目	
事業の目的・概要	【目的】 音楽に触れる機会を作ると共に町内で音楽(合唱など)活動に取り組んでいる人たちに発表の場を提供し、音楽活動の活性化に資する。 【概要】 町民音楽祭(北栄町コーラスフェスティバル)の開催			
事業の効果	【効果】 コーラスフェスティバル開催による町民の発表・交流の場と鑑賞機会を提供し、音楽活動の活性化に資する。			
具体的な取り組み	10月26日(日) 北栄町大栄農村環境改善センター 午後1時開場 午後1時30分開演 入場無料 開催までの練習場所の提供 実行委員会が中心となって企画・運営する。			

【最終評価】

	事業実績 10月26日(日) 北栄町大栄農村環境改善センター 午後1時開場 午後1時30分開演 入場無料 開催までの練習場所の提供 実行委員会が中心となって企画・運営する。																																																												
事務局	指標 (具体的な数値目標)の達成度 <table> <tr> <td colspan="2">指標名／単位</td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">参加グループ／団体</td> <td>8</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">観覧者／人</td> <td>270</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>事業費 (千円)</td> <td>今年度予算額</td> <td>110</td> <td></td> <td></td> <td>98</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>前年度決算額</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	指標名／単位										参加グループ／団体		8								観覧者／人		270																		事業費 (千円)	今年度予算額	110			98						前年度決算額	100							
指標名／単位																																																													
参加グループ／団体		8																																																											
観覧者／人		270																																																											
事業費 (千円)	今年度予算額	110			98																																																								
	前年度決算額	100																																																											
	成果・効果 町内で活躍する団体にその成果を発表する場を提供した。 全国障がい者芸術・文化祭鳥取大会(あいサポート・アートとっとりフェスタ)のマスコットが出演し、同大会の広報も合わせて行った。																																																												
	課題 参加団体、観覧者数を増やし、音楽に親しむ取り組みを広げること。 実行委員会の自立と主体的な運営。 運営スタッフの確保。																																																												
	改善方針 計画的な広報周知によって、参加団体には年間活動計画のひとつに位置づけていただく。 さまざまな媒体を活用した広報に努め、音楽に親しむ雰囲気醸成する。																																																												
内部評価	<table> <tr> <td>最終評価</td> <td>【意見等】・参加していないグループがあるのなら参加してもらえように工夫すること。 ・それぞれの小・中学校の生徒も歌うとなれば参加者がもっと増えるのでは。 (中学校の場合は文化祭が終わらないと無理かもしれないが。)</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> </tr> </table>	最終評価	【意見等】・参加していないグループがあるのなら参加してもらえように工夫すること。 ・それぞれの小・中学校の生徒も歌うとなれば参加者がもっと増えるのでは。 (中学校の場合は文化祭が終わらないと無理かもしれないが。)	C																																																									
最終評価	【意見等】・参加していないグループがあるのなら参加してもらえように工夫すること。 ・それぞれの小・中学校の生徒も歌うとなれば参加者がもっと増えるのでは。 (中学校の場合は文化祭が終わらないと無理かもしれないが。)																																																												
C																																																													

※ 評価確認事項

★評価の観点
① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準	
A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	33
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	人権の花運動の実施(人権啓発活動)		今年のごと テラシ等 P52
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	3 人権教育の推進	
事業の目的・概要	【目的】 花を育てることを通して、命の尊さを学び、友達と協力する心、豊かな心、思いやりの心を養う。 【概要】 北条小学校、大栄小学校で人権擁護委員が花の苗等を贈呈。児童と一緒にプランターへの移植作業を行う。以後、児童が水遣り等の管理を行い栽培する。		
事業の効果	【効果】 生き物を育てることにより人や物を大切にし、相手を思い遣る心が育つ。 友だちと協力して物事に取り組む姿勢が育つ。		
具体的な取り組み	10月頃に花の苗、約500株(5種類)を北条小学校と大栄小学校に贈呈し。人権擁護委員と児童と教師でプランターや花壇への植え替えを行う。その後児童、教師が毎日水遣りや除草など、花の管理を行う。 人権標語ステッカーを貼ったプランターの花を玄関先の人目につく場所に置き、来校者への啓発も行う。		

【最終評価】

事務局	事業実績	3月11日に大栄小学校、3月12日に北条小学校で人権擁護委員の参加のもと「人権の花」の贈呈式を実施。卒業式の会場等を飾る予定。今後児童が水遣り等の世話を行っていく。 花苗:ピオラ、デージー(計360株)、						
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名/単位	H23	H24	H25	H26	H27	H28
		贈呈花苗数(株)	700	600	654	360		
		参加児童・教職員(人)	477	470	910	853		
	事業費 (千円)	今年度予算額	92	今年度		0	【説明】	
		前年度決算額	97	決算見込額	92	差引	5	
	成果・効果	花の栽培を通して命を大切にしたり人を思いやる心を育むことなどに寄与する。 また、来校者が人権標語入りプランターを見ることにより、児童の活動を知り人権意識を新たにすることが期待できる。						
課題	実施時期が従来の春(5月頃)から、年度末になってしまった。毎年実施している事業だが、来年度の実施時期等を検討する必要がある。							
改善方針	来年度の実施時期として秋頃を考えてみる。							
内部評価	最終評価	【意見等】・花だけでなく、他の生き物を用いることも考えられるがどうか検討すること。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

			整理番号	34
			担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】				
事業名	小・中学生の人権学習会の開催(人権学習会事業)			今年のごと P54
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町		チラシ等 その他共通ビジョン項目 3-7
	具体的な目標	3 人権教育の推進		
事業の目的・概要	【目的】 小学生・中学生を対象に、さまざまな人権問題に関わる差別や偏見に気づき、解消する力を育てる。 【概要】 参加を希望する児童・生徒、団体を対象として、学校の人権学習と連動した人権学習を行い、人権に関する知識や認識を広げたり、深めたりして差別を解消する力を育てる。			
事業の効果	【効果】 人権に関する知識や認識を広げたり深めたりすることにより、差別に負けず力強く生きていく力を身につけるとともに、周囲を含めて差別を解消していこうとする力が育つ。 また、人権学習をとおして発表する力や文章にする力などが育つ。			
具体的な取り組み	町内小中学校単位で実施し、年間をととした学校の人権学習と連動した人権学習を指導する。学校を通して参加を希望する児童・生徒を募集。 会場は、北条小学校と北条小学校が北条文化会館、大栄小学校と大栄中学校が大栄文化センター。小学校が昨年より2回増の年間22回程度。中学校が年間27回程度。 地域住民や保護者などの協力を得ながら、地域の歴史などの学習も行う。			

【最終評価】

事務局	事業実績	すべての小中学校で実施。 参加者：大栄小11人、北条小6人、大栄中4人、北条中1人 なお、参加の対象は各校の児童・生徒全員として、希望者に申込みをもらった。													
	指標 (具体的な数値目標)の達成度	指標名／単位		H23		H24		H25		H26		H27		H28	
		実施回数(回)		126		128		69		96					
		参加児童・生徒(人)		38		36		20		22					
	事業費 (千円)	今年度予算額	957		今年度	561		差引	396	【説明】					
		前年度決算額	506		決算見込額				-55						
	成果・効果	家族や地域のことをよく知ることにより、地域に誇りを持ち、自己肯定感を高めている。また、さまざまな人権侵害を見逃さず、無くしていこうとする態度が育っている。 大栄小学校で地区外児童の参加が1人あり、地域全体に学習を広げる足がかりができた。													
	課題	人権学習会をバックアップする家庭・保護者の積極的な人権学習と正しい認識が必要だが、近年、若い世代を中心にその意識が薄れている。人権問題の分野によっては、内容の深度等に地域格差が生じている。また、これには学校の人権教育全体計画や年間指導計画のちがいが影響している。													
改善方針	人権学習の目的、学習内容等を保護者・学校・行政が理解し、共通して押さえておく学習事項についても確認しておく。														
内部評価	最終評価	【意見等】・各学校において到達点を同一としそれぞれにあった方法で指導を進めていけないかどうか検討すること。													
	C														

※ 評価確認事項

★評価の観点

- ① 継続・単年
- ② 対象者、参加者
- ③ 参加者の満足度
- ④ 予算措置
- ⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

- | | |
|---------------------|-------------------|
| A = 目標を大幅に達成できた | D = 目標を一部達成できなかった |
| B = 目標をいくらか超えて達成できた | E = ほぼ全く達成できなかった |
| C = 目標どおり達成できた | |

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。

		整理番号	35
		担当課名	生涯学習課
【評価事務事業：当初確認事項】			
事業名	人権教育事業所研修の実施		今年のごと チラシ等 P54
教育ビジョン	小項目	5 人権を尊重する気運が社会に根付き、豊かな人間性や社会性を身につけた人があふれる町	その他共通ビジョン項目
	具体的な目標	4 人権尊重まちづくりの推進	
事業の目的・概要	【目的】 事業所経営者や従業員の方で人権教育講演会や懇談会等に参加しにくい方へ人権問題に関心を持っていただくため、事業所の自主的な実施の依頼や、こちらから講師として出向き研修を実施する。 【概要】 事業所に自主的に人権研修を実施していただくよう要請し、学習内容の助言等を行ったり事業所に出向いて研修を実施する。		
事業の効果	【効果】 人権研修機会を増やし、より多くの人に入権研修を行っていただくことにより、人権尊重のまちづくりが推進できる。		
具体的な取り組み	年間を通して事業所に対し、事業所経営者や従業員を対象とした人権研修の実施を依頼し、学習内容や学習教材のアドバイスをしたり、人権教育推進員が講師として指導を行う。 ・近年研修実績のない事業所に対して実施を呼びかける。		

【最終評価】

事務局	事業実績	人権教育推進員が町内事業所を対象にして随時人権研修や情報提供などを実施。(3月末まで随時)						
	指標 (具体的な数値目標) の達成度	指標名／単位	H23	H24	H25	H26	H27	H28
		実施事業所数	18	15	18	(17) 13		
		参加者数(人)	802	674	700	(750) 580		
		事業費 (千円)	今年度予算額 0	今年度 0	差引	0【説明】人権教育推進員の人件費については記載していない		
		前年度決算額 0	決算見込額 0					
	成果・効果	単独では人権研修の開催が困難な事業所等に対して学習方法や教材等のアドバイスをしたり、直接講師として研修を実施するなど、事業所における人権研修をサポートし、人権意識を高める事につながっている。						
課題	小規模事業所の人権研修が少ない現状がある。また、独自に研修実施ができる事業所が増えたためか、サポート依頼等を受ける事業所が若干減少傾向にある。							
改善方針	小規模事業所に対して行政から直接事業所に実施の声かけや、関係機関が実施する研修会・講演会等の情報を提供し、自主的な参加を促していく。							
内部評価	最終評価	【意見等】・独自に研修を実施している事業所が増えているということで事業の成果を確認することができた。						
	C							

※ 評価確認事項

★評価の観点

① 継続・単年
② 対象者、参加者
③ 参加者の満足度
④ 予算措置
⑤ 教育ビジョンへの貢献度

※ 上記「評価の観点」に基づき、事業評価シートの作成及び評価を行う。

★評価の基準

A = 目標を大幅に達成できた	D = 目標を一部達成できなかった
B = 目標をいくらか超えて達成できた	E = ほぼ全く達成できなかった
C = 目標どおり達成できた	

※ 上記「評価の基準」に基づき、事業評価の判定を行う。